

いわき地域環境科学会会報



ふいーるど

FIELD No.127

< 目 次 >

【お知らせ】

- ★ 「いわきの環境科学遺産」候補地の募集 1

【報告】

- ★ 第29回発表会報告 2
- ★ NPO法人いわき環境研究室 4
- ★ いわき自然エネルギー研究会の動き 5

【会員の動きから】

- ★ 会員の活躍状況 6

【連載】

- ★ 新川のはじまり 水だより(7) 6

【リレーエッセイ】

- ★ 川崎滞在中の散歩道 8

【お知らせ】 いわき地域環境科学会 会員が選んだ 「いわきの環境科学遺産」候補地の募集について

いわき地域環境科学会は、来年の平成30年に創立30周年を迎えます。

「30周年の記念にふさわしい事業を」と事務局一同熟慮した結果、「いわきの環境科学遺産」の選定という事業を企画しております。

私たちのこれまでの30年間の、自然観察会や研究会、ワーキンググループあるいは個人の研究活動の中で、後世に残しておきたいと思える環境研究のフィールドがいくつかありました。これは、単に保全・保護しておきたい場所ということだけでなく、何世代にもわたっての環境調査研究が必要と思われるフィールドや、環境の変化を長期にわたって観測・観察すべき場所、環境教育や研究の場としてふさわしい場所などを「いわきの環境科学遺産」として記録に残し、会員や次の世代の研究者などに参考にしてほしいというものです。

これは、今、公的機関が選定している「世界遺産」や「産業遺産」などとは性格を全く異にするものです。また、それらとの競合は考えておりません。むしろ、公的機関が「指定」する際の参考にしてもらえればとの考えです。

対象地域は、いわき市内に限定せず、その周辺の地域も含む広いいわき地域と考えています。このいわき地域の豊かな環境をいつまでも残しておきたいという思いを込めて企画しました。

会員の皆様のご応募をお待ちしております。

◆ 応募要領

- ・別添の応募用紙に必要事項を記入し、写真を添付してください。
※お送りいただきました写真は、希望される方にはお返しします。
また、写真を当会のパンフレットやチラシに使用させていただくことがありますことをご承知おきください。
- ・提出先
〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾 30
福島工業高等専門学校内 いわき地域環境科学会事務局
電話：0246-46-0837 (電話については担当者がいつも出られるとは限りません)
- ・応募用紙の提出は郵送のみとさせていただきます。
※封筒の表面に「環境科学遺産応募用紙在中」と記入してください。
- ・提出期限：平成 30 年 3 月 31 日 (消印有効)

【報告】 第 29 回 発表会 開催報告

去る 1 月 20 日 (土) 午後 1 時 30 分から、いわき市常磐西郷町にあるパルシステム福島「みんなの交流館」において、当会第 29 回発表会を開催しました。参加者は約 30 名でした。

発表会は富田副会長の挨拶で始まり、第一部の自由テーマによる発表、休憩をはさんで第二部の設定テーマ「いわき地域の環境 過去・現在・未来」による発表と続きました。

第一部の自由テーマによる発表は、平川副会長の座長で行われました。ここでは、福島高専の学生が卒業研究の中で取り組んでいる研究の紹介をしていただきました。第二部の設定テーマによる発表では会員から 2 件の発表があり、原田副会長の座長で行われました。

発表会終了後は、発表会場でなごやかに懇親会を開催いたしました。今回は、秋の子供環境研究発表会にお子様に参加したのをきっかけに当会の活動に興味を持たれ、この発表会も聴講された方もいらっしゃる、会員以外の方にも関心をもっていただける良い機会となりました。

当日ご発表頂いた皆様、聴講いただき活発な討議に加わっていただいた皆様に感謝いたします。

記

自由テーマによる発表

- ① 「食餌環境の違いによるゲンジボタルの成長特性について」
○白井栄佑, 原田正光 (福島高専建設環境工学科)
- ② 「ヒゲナガカワトビケラとその周辺環境における放射性セシウム調査」
○若宮楓矢, 原田正光 (福島高専建設環境工学科)
- ③ 「『スマートグリッド実規模実験装置』による太陽光発電シミュレータのパラメータ最適化に関する研究」
○櫛田秀人, 山本敏和, 橋本慎也 (福島高専電気工学科)
- ④ 「反射光を利用した太陽光発電装置に関する研究」
○桑名将梧, ○高木 諒, 森下英樹, 山本敏和, 橋本慎也 (福島高専電気工学科)
- ⑤ 「小型風力発電機における始動特性の研究」
○奥山穰, ○ヌイ, 岡部佑弥, 山本敏和, 橋本慎也 (福島高専電気工学科)
- ⑥ 「小水力発電装置における出力向上に関する研究」
○嶋 穂高, ○坂本佳暉, 鈴木孝幸, 山本敏和, 橋本慎也 (福島高専電気工学科)

設定テーマによる発表「いわき地域の環境 過去・現在・未来」

⑦ 「私のサイエンス」

野村芳秀 (いわき地域環境科学会 会員)

⑧ 「いわき地域の自然景観 — “これまで” と “これから” —」

山田貴浩 (いわき地域環境科学会 会員)



総会司会の山田事務局長



富田副会長の挨拶



第一部自由テーマ
座長の平川副会長



第二部設定テーマ
座長の原田副会長



発表会会場状況と「私のサイエンス」を発表する野村さん



第1部自由テーマによる発表を行う福島高専学生の皆さん



発表会後のなごやかな懇親会

◇◇◇NPO法人いわき環境研究室からの報告◇◇◇

(平成30年1月1日～2月28日)

【1】「小中高校における水環境学習支援事業」(平成29年度環境まちづくり担い手育成支援事業)の業務報告(第5報)

「環境まちづくり担い手育成事業」として、今年度、好間四小、夏井小、泉小、いわき海星高校の児童・生徒を対象に学習支援を実施して参りましたが、1月10日にいわき市に事業報告書を提出しました。報告書には、各学校で実施した学習支援の内容及び支援学習による参加者の河川環境に対する認識の変化を見るための事前・事後アンケート結果の解析結果や今回初めて取り組んだ「みずしるべ」(河川環境を多面的に評価しようとするツール)の評価等が盛り込まれております。また、これらの内容及び実際に支援学習に使用したPP教材等を取り込んだDVDも作成・添付しました。

報告書は、いわき市からの了解を得て、図書館等、関係機関に配布することになりました。会員の方で、事業内容に関心をお持ちの方、報告書には、部数に限りがありますが、DVDは、お分けできます。

(NPOのホームページへの報告書等の掲載の可否については、目下、いわき市に問い合わせ中です。)

※報告書等についての問い合わせは、下記にご連絡下さい。

橋本孝一：TEL&FAX. 0246-22-2621、

電子メール：khashi0823@hotmail.co.jp



【2】平成29年度 第3回 理事会を開催しました

2月8日(木)、福島高専建設環境工学科棟会議室にて、今年度3回目となる理事会を開催しました(理事7名中6名出席)。今回の理事会では、平成29年度の予定事業がほぼ一段落した段階での会議となりました。当NPOの活動の3本柱を中心とした実施事業内容についての活発な意見交換がなされました。また、これらの内容を踏まえ次年度の事業展開に対する基本的な方向についても議論がなされました。また、今年度、ホームページが更新され、当NPの活動状況を遅滞なく広報できる体制が整いました。



【報告】 「いわき自然エネルギー研究会」の動き (第19報)

【1】市内3施設での動きについて

<湯の岳山荘>

- 太陽光パネルによる発電状況の表示用電源盤を設置、発電量をリアルタイムで表示する電源盤が、福島高専の電気工学科の先生方のご協力を戴き、このほど、設置完了しました。
- 設備の移転後の状況に対応するため、説明用パンフレットを更新しました。



<諏訪神社 (平下平窪) >

- 「平窪自然塾」では、1月29日、第6回目となる打合せ会議を開き、既存の自然エネルギー学習施設を軸としつつ、地域性を反映した事業を展開すべく、設備の維持管理、地元平窪地区の自然エネルギー設備の活用状況に関する調査等、今後の事業展開について話し合われました。

- 本施設でも、新たに施設内容を説明するパンフレットの更新を行いました。

<田人地区>

- 今後、設備の利活用に関して体制を整える必要があります。

【2】その他

- より一層の自然エネルギー学習設備の充実に向けて、平成30年度の「地域づくり基金」(パルスシステム生活協同連合会)に申請(申請主体: NPOいわき環境研究室)しておりましたが、このほど、助成を戴けることになりました。次年度も、事業内容の充実・強化に向けて頑張っていきたいと思っております。

【会員の動きから】 一当会の会員がそれぞれの分野で活躍しています。

該当会員	時期・場所	主催所管	内 容
橋本孝一 和田佳代子	H30.1.17 いわき市役所	生活排水対策 室経営企画課	いわき市下水道等経営審査会への出席 地域汚 水処理事業、農業集落排水事業の概要の説明

【連載】 新川のはじまり 水だより (7)

いわき科学の里 主宰 諸橋健一 (会員)

ようやく、平成 29 年分の新川上流域の降水量観測結果がまとまりました。比較のため、下流域の平と、測候所があった小名浜の観測値を掲載しておきます。平と小名浜のデータは福島地方気象台の公表値です。

新川上流域の 1 月から 3 月にかけての積雪量累計 19.5 cm。3 月 7 日が最後の積雪観測でした。冬期間の降水量観測は、雪や雨が凍りつき、蒸発しないよう融かすのに一苦勞です。

3 月中頃から降水量が増えてきます。4 月 29 日、鹿島神社の緑色の桜、御衣黄 (ぎょいこう) が満開。4 月は一年中でいちばん美しい季節。ワラビ、ウド、タラの芽などの山菜類が一斉に芽吹きます。地温が上がり、土が潤い、畑から野菜の双葉が弾き出ます。4 月の降雨日数は、12 日。2～3 日に 1 度降っている勘定になります。

5 月に入ると、一転して乾期に入ります。畑の土はカラカラに乾燥。毎日の水やりが欠かせません。東北各地で山火事が発生。山火事の季節です。降らない日が 13 日まで続きます。13 日に 108 mm の雨が降り、一安心。18 日は 30.5mm の高野だけの雨。新川下流域の内郷・平地区は降雨なし。

6 月は、雨のスタートとなりました。梅雨が近づいている予感。梅雨のときは、山背風が吹いて肌寒い日が続きます。6 月 21 日、東北管区気象台が東北南部の梅雨入り発表。平年より 8 日遅い梅雨入り。21 日の雨量は 78 mm、風を伴う強い雨でした。

夏至を過ぎると、ホタルが飛びはじめます。6 月 25 日、高野小 4 年生の伝統行事、ホタル観察会が実施されました。7 月 13 日の研究授業では、子どもたちが、ホタルについて調べたことを発表しました。ホタルが飛ぶ条件は、月明かりが少ない、湿度が高い、風が弱い、だそうです。

7 月 15 日、薄磯海水浴場、7 年ぶりに海開きのニュース。雨は適度に降っています。このところ 30℃を超える猛暑、梅雨が明けないのに、何か変な感じです。

8 月に入り、曇った天気が続きます。8 月 2 日梅雨明け。梅雨開けが 8 月に入るのは、平成 25 年以来 4 年ぶりとのこと。8 月は、長雨、日照不足により、農作物の生育に悪い影響を与えます。この天候は、湿った冷たい、山背風が吹き込んでいるため。山背が弥ノ山の山並みにぶつかり、雨をもたらし。高野の山々の上の方は、雲に包まれ、全く見えません。

8 月 7 日に、台風 5 号。この時は、いなさ風が吹きます。いなさも高野の山々にぶつかり、雨を降らせます。8 月 19 日は霧の朝。幻想的な風景にしばし見とれてしまいました。

9 月 1 日、気象台から 8 月 2 日の梅雨明けの発表を取り消す発表がありました。今年の梅雨は特定できなかったということです。9 月 17 日から 18 日にかけて、台風 18 号がやって来しました。

台風のもたらした降雨は 144 mm。9 月下旬は栗の収穫期。大豊作でした。

10 月になると、科学の里の木々の葉が色づきはじめます。10 月 22 日台風 21 号。24 時間降雨量は 179 mm でした。1 週間後の 10 月 29 日には台風 22 号。54 mm の雨が降りました。これらの台風のおかげで、10 月の降水量は 424.5 mm。最近の台風は、日本列島の近くで発生し、強い勢力のまま上陸してきます。昔は、フィリピン沖で発生、日本に来るころには勢力が弱くなっていました。やはり、地球温暖化のせいでしょうか。

10 月 30 日、強風。8m/s 以上の北寄りの風、木枯 1 号です。季節は一転、秋から冬へ。気温も一桁台に。科学の里では、八ツ頭の収穫、ズイキの天日干しが始まります。柿も取り入れの適期。渋ぬきや干柿づくりに忙しくなります。

11 月に入ると風の強い日が多くなります。西高東低の冬型の気圧配置。とたんに雨が少なくなります。降水が観測されたのは 3 日だけ。11 月の降水量は 40.5 mm でした。11 月 22 日初氷。落葉樹は枝だけの姿になります。

11 月 2 日、天狗山初冠雪。12 月 7 日初霜。12 月 27 日初積雪。12 月の降水量は 30 mm。冬期は蒸発散量が少ないのでしょうか。雨は降らないのに地面は湿っています。

平成 29 年は季節が混乱した一年でした。偏西風の乱れが原因だそうです。新川上流域の年間降水量は 1783mm でした。イクオール 30 号に掲載した「高野の環境」で、新川上流域の降水量を、小名浜が 1550mm のとき、1700 mm ぐらいと推定しました。平成 29 年の観測結果を見ると、新川上流域では、思ったより降っているのに驚かされます。やはり実測にはかないません。下流域の平では、1226mm。小名浜は平年値を下回る 1266mm でした。

河川流域の水収支を考えると、いわき市内流域の降水量を小名浜の観測値で代表してしまうのは考えものです。流域面積数十～数百 km² に降る雨を、直径 20cm、314 cm² で代表する。いささか乱暴なはなしです。実測がいちばんいいのはわかっています。でも、一人で市内全流域の観測は不可能です。

この連載は、今回で終わりということにします。しかし、新川上流域の降水量観測は、これからも続けていきます。観測値はイクオール誌上に掲載していくつもりでいます。ご愛読ありがとうございました。下表は、新川流域降水量 月毎の値 (mm) です。

月	上流域(高野)	下流域(平)	小名浜	小名浜平年値
1	50.0	30.0	55.5	52.8
2	21.5	11.5	15.0	58.0
3	99.5	78.5	98.5	107.5
4	154.5	114.5	125.5	125.3
5	172.5	84.0	76.0	142.0
6	162.0	156.0	149.5	148.7
7	155.0	123.0	100.0	150.4
8	198.5	126.0	120.0	135.5
9	265.5	159.5	179.5	188.2
10	424.5	285.5	284.0	173.8
11	49.5	30.5	39.5	82.4
12	30.0	27.0	23.0	44.4
計	1783.0	1226.0	1266.0	1409.0

小名浜平均値：1981～2010 年※この記事及び観測値の利活用は本会会員に限ります。



【リレーエッセイ】

川崎滞在中の散歩道

平川英人（会員）

平成 29 年 10 月 25 日から 30 日にかけて、妻と一緒に生後 10 か月の孫に会いに川崎行ってきました。娘婿がスウェーデンに出張したので、用心棒と子育て支援のためでした。

娘家族が住んでいるのは、多摩川を挟んで直ぐ近くに二子玉川駅がある交通に便利な場所にありました。田圃を埋め立てた場所で高級とはいえないまでも、普段は閑静な住宅街ですが、多摩川花火大会の時には、大きな音で窓ガラスが響くそうです。昨年建てたばかりの 2 階建ですので、近くの高層マンションに遮られて、窓から花火が眺めることができないのが難点でした。

この地区を私が気に入った一つに「高津のさんぼみち」と土地の人がよんでいる絶好の散歩コースがあったことです。川崎に行っても日課にしている散歩を欠かさずしていました。

多摩川沿いのかすみ堤から入り、溝口駅前方向に向かうと、用水を常に正しい割合で 2 か所に分割する伊地円筒分水がありました。そこから二カ領用水が流れていて、両脇には梅の木が植栽されていました。ここまでが「水辺の歴史をしのぶ道」でした。

溝口駅近くの信号を左折すると、大山阿夫利神社への参詣道になっている大山街道に入りました。直ぐ近くに陶芸家浜田庄司の生家がありました。今ではマンションに替わって立て看板が残っていました。その先に、二子神社境内に建てられている岡本かの子文学碑がありました。長男の芸術家・岡本太郎が製作し、基礎工事および台座は建築家・丹下健三が担当しました。記念碑は亀井勝一郎が文章を書き、それを川端康成が清書しました。昭和を代表する超有名人が関係していました。近くに岡本かの子の生家である大貫家がありましたが、現在では児童公園に替わって看板だけが立っていました。大山街道を北に行くと多摩川に交差しました。ここまでが「大山街道」でした。

多摩川河畔に二子の渡しの入り口がありました。現在では二子橋が架かって、簡単に二子玉川まで行くことができますが、江戸時代には橋がなく、対岸へは必ず舟で渡ったそうです。

多摩川土手から河川敷に入りました。ここでは、橋の下にバーベキューハウスがありました。

鉄板やコンロなどの道具をここで借りて、お肉や野菜などを持参すれば直ぐにバーベキューパーティーを楽しむことができるようになっていました。その先には、軟式野球場が 3 面、ソフトボール場がありました。平成 29 年 10 月 23 日の超大型台風の影響を受けて浸水したために、水たまりができて使えない状態でした。ベンチの下には、上流から流れてきたカヤが大量に溜まっていました。多摩川と平瀬川の合流点で河川敷を出ると、かすみ堤に戻り、散歩コースが終了しました。

「高津のさんぼみち」には「川辺の歴史をしのぶみち」、「大山街道」および「多摩川河川敷」という三カ所の見所があり、楽しみながら散歩ができました。川崎市は大都会ですが、このように行楽地や公園が他にもたくさんありました。

2018. 3.1. No.127

発行：いわき地域環境科学会

福島工業高等専門学校

地域環境テクノセンター内

〒970-8034

いわき市平上荒川字長尾30

TEL. 0246 (46) 0837

FAX. 0246 (46) 0843

E-mail : mail@essid.org